

～人権平和宣言～

私達にとって「戦争」は、とても遠い存在です。

授業やニュースで知る戦争も、簡単に想像することはできないのではないのでしょうか。暖かい布団で眠れること。学校へ通えること。家族や仲間、先生や地域の方々に囲まれながら生活できること。当たり前過ぎていく日々を、当たり前前に感じながら生きていけることはとても幸せなことです。

今から 77 年前の 1945 年 3 月 26 日、太平洋戦争の最中、沖縄県で日本唯一の地上戦が始まりました。文化も言語も違うアメリカの軍艦隊、戦闘機、火炎放射器などから繰り広げられた攻撃、当たり前が当たり前でなくなった当時の環境は沖縄県民一人一人の心を蝕んでいきました。今まで沖縄で平和に過ごしていた何の罪もない人々が傷つけられ、無惨に殺されていきました。沖縄戦では鉄の暴風と呼ばれるほど台風の暴風雨のような勢いで銃弾が飛び交い、多くの命が失われました。また、鉄血勤皇隊の 14 歳から 17 歳の青年たちが戦争に駆り出されて銃を握らされ、その多くが犠牲になりました。ひめゆり学徒隊では女学生たちが看護の訓練を受けさせられ、激戦地の戦場で看護に当たり、自分たちも多くが犠牲になりました。人が人でなくなってしまうことが戦争の現実です。沖縄戦では兵士約 10 万人、住人約 10 万人が亡くなりました。

戦争はとても残酷で、沢山の人の命が奪われました。ガマに隠れている人達はいつ自分達のガマに爆弾が落ちてくるかどうか毎日怯えながら過ごし、中には、手榴弾を使って自分達から命を絶とうとし集団自決をする人たちも少なくなかったです。戦争はとても残酷で、沢山の人の命が奪われました。一方、ガマに隠れてない人たちは、ガマ以外の隠れられるところに身を隠していましたが朝起きると、前日まで話していたはずの家族も血を流し亡くなっていたりと、大人から子供まで、いつ誰が亡くしてもおかしくない状況でした。この戦争で家族を亡くした人たちは、心に深い傷を負い、そこには言葉じゃ表しきれないくらいに辛さや、悲しみがあると思いました。

戦争をする前は、今の私達と同じように家族と食卓を囲んで普通にご飯を食べていたのに、戦争が始まった途端にご飯を食べることでさえも命がけになり、食べる食糧を探すために人の家や畑で食糧を見つけて、最終的に自分が生きるために亡くなった人たちの食糧をもらわないといけない状態にまでなっていました。だから、今普通に食卓を囲んでいる、ご飯を食べられるこの日常に感謝していかないといけないと思いました。

戦争は長期にかけて戦うのではなく、核兵器などの爆弾を使い一瞬で街を壊し無惨にも人間などを殺してしまいます。例えば、広島や長崎に落とされた原子爆弾です。原爆が落ちると一面焼け野原になってしまいます。それに後遺症まで残ります。その原爆の後遺症は一生残ります。

『沖縄とウクライナ』

沖縄戦から77年目の月日が経ちましたが、惨劇は現在でも繰り返されています。それが「ウクライナ戦争」です。プーチン氏が一方的にウクライナに軍を攻め込ませ、何万人もの民間人の虐殺、拷問といった重大な国際法違反をこの21世紀に平然と犯し、ウクライナ、ロシア両国民を苦しめ、想像もできぬ苦しい渦の中に落とし込めています。一体、我々は過去の戦争から何を学んできたのでしょうか。我々はこの戦争を決して許してはなりません。それと共に、「平和とはなにか」ということを改めて考える時であると強く感じました。

戦争は何の罪もない国民を傷つけ、命を奪ってってしまうものです。だから私達は無駄な争いをやめ、自分の命を大切にし、亡くなった人の分もしっかり生きていかなければならないと思いました。敵対意識をなくすために世界の人々の状況や環境、文化の違いをしっかりと理解しておくことが大切です。自分が常に正しいとは思わず相手の意見も尊重し、自分の意見と照らし合わせ、もう一度考え直してみることも必要です。一人一人に命の大切さ、戦争をしてはいけないということを伝えて行かなければならないと思いました。

近年コロナウイルスが流行っています。そのことでデマや真実でないことも語られています。その影響で感染した人々に偏見や差別が残ります。偏見や差別は人に悲しみを生みます。そのせいで人が自殺してしまうこともあります。病気で死ぬことも怖いですが差別などで命を絶つのはもっと怖いと思います。誰が悪いとかを決めず皆辛いことをわかってコロナ禍を過ごすことが大切です。現代ではSNS上で簡単に人を傷つけられるため、言葉の重みを考えなければなりません。喧嘩とかじゃなくて世界で争うことがなく、みんなが冷静に考えることが大切だと思います。ニュースを見て終わるんじゃなくて、現状を知り考える事が大事です。みんなで協力し、話し合い理解し合う。いじめや差別の問題にしっかりと向き合う。自分がされて嫌なことは絶対に人にしない。一人一人が輝ける素敵世界にするには、友達を大事にすることも平和への道のりの一つだと思います。

今、世界は平和と呼べる状況なののでしょうか。戦争で命を落とした方々、辛い過去を今まで語り継いでくれた方々、自分たちの未来のためにも、私達は沖縄戦やその他多くの戦争で繰り返されてきた悲劇を忘れてはなりません。そして、平和について知識の幅を広げ、この現実としっかりと向き合わなければなりません。これまでの平和学習を通して学んだこと、感じたことを飛鳥中の後輩、10年後、20年後、その先の未来に生まれる次の世代の人にも戦争の悲惨さや生き物の尊さを知って欲しいと思いました。

私達は、今平和に暮らしていますが、他の国では、争いや揉め事が絶えません。だから、世界にたった一つしかない命を無駄にしてほしくないです。私達は、『命を大切にし、平和な世界にする』そんな大人になりたいと思います。

2022年7月20日

奈良市立飛鳥中学校三年一同(第38期生)